



## 第2回日米コンピュータ会議案内

——前納申し込み締切り迫る!!——

既報のとおり、本年8月26、27、28日の3日間、東京プリンスホテルにおいて、第2回日米コンピュータ会議が開催されます。

前納参加費による申込受付けは6月30日までと締切りが迫ってまいりました。参加ご希望の方は早目にお申し込み下さい。なお参加費は下記の通りです。

| 会 員 種 別 | 参 加 費                                    | 備 考         |
|---------|--|-------------|
| A 正会員   | a<br>¥ 25,000 (1975年6月30日まで)<br>¥ 28,000 | 主催および協賛学会員  |
|         | b<br>¥ 30,000                            | a以外の一般参加者   |
| B 学生会員  | ¥ 5,000                                  | 情報処理学会の学生会員 |
| C 家族会員  | ¥ 3,000                                  | 正会員の家族      |

申込書は本誌1974年10月号に挿入されています。

参加申込、申込書および案内書の要求、その他のお問い合わせは下記にお願いします。

(社)情報処理学会 第2回日米コンピュータ会議事務局

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3号 (TEL) 431-2808

同分室 (東京都港区六本木 7-3-23 日本コンベンションサービス(株)内)

(TEL) 401-1111

## 第13回通常総会について

役員をはじめ、会員各位のご協力により、本年度通常総会は、去る5月15日(木)に全議案が異議なく承認されました。詳細は、本号本会記事欄(559ページ~565ページ)記載の(1)49年度事業報告、決算報告、(2)50年度事業計画、予算書、(3)定款の変更、(4)50年度新役員改選、(5)名誉会員の推薦)によりご了承ください。

なお、50年度会費については、文部省の定款変更認可後に施行いたしますのでよろしくお願いします。

正会員 4,800円+1,200円(植上り分の半額)=6,000円

学生会員 1,500円+750円( )=2,250円

## 第16回情報処理学会大会について

昭和50年度第16回の本学会大会は下記により開催されることになりました。論文申し込み要領については、次号本欄でお知らせいたしますのでご留意ください。

記

日 時 昭和50年11月20日(木)、21日(金)、22日(土)

会 場 慶応義塾大学工学部矢上校舎(横浜市港北区日吉町832)

## 昭和 49 年度論文賞の決定

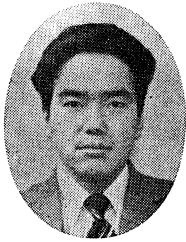
昭和 49 年度情報処理学会論文賞は、同賞選定委員会（猪瀬委員長ほか 19 名）において慎重に審議された結果、下記の 3 編が最終候補として推薦され、第 175 回理事会（50 年 3 月）の承認を得て決定されました。

なお、本会表彰規程による賞状と賞金の授与は、5 月 15 日開催の第 13 回通常総会の席上で、尾見会長の手により行なわれました。

### 記

#### ○「ドット式表示装置による濃淡図形表示の方法」

[Vol. 15, No. 7, pp. 503~509 (July, 1974)]



藤村 是明（正会員）

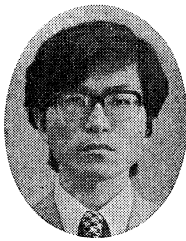
昭和 21 年生。昭和 44 年東京大学工学部計数工学科卒業。46 年同修士課程修了。同年より通産省工業技術院電子技術総合研究所にて、視知覚のモデル化に基づく図形処理方法およびオンライン実験用小型計算機システムの研究に従事している。

〔論文概要〕 黒白 2 値のドット式表示装置による濃淡図形表示の画質を低下させる主な要因としては、量子化による偽の輪郭の出現と画素内ドット配置の反復によるモアレ模様の二つが挙げられる。本論文は各ドットの白黒をその画素の明度に従って確率的に決定することにより上記の二つの問題を同時に解決する方法を具体的に提示し、画素あたりのドットが比較的少数のときにも良質な画像が得られることを実例によって示している。

本論文はドット式表示装置による濃淡図形の表示に際し、画面内の画素数を増し空間解像度を高めることによって装置全体の表示能力を増すための具体的手法を与えるものである。

#### ○「予測子を用いた Open Hash 法」

[Vol. 15, No. 7, pp. 510~515 (July, 1974)]



西原 清一（正会員）

昭和 21 年生。昭和 43 年京都大学工学部数理工学科卒業。同年より同大学大型計算機センタ助手となり現在に至る。コンピュータ・グラフィックス、特にフローチャート・プログラミング、計算機動作作成システムの開発、データ構造および数理論理の応用などの研究に従事している。



萩原 宏（正会員）

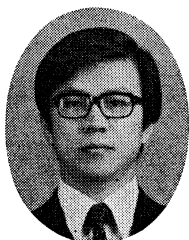
大正 15 年生。昭和 25 年京都大学工学部電気工学科卒業。NHK を経て、昭和 32 年京都大学工学部助教授、36 年同教授となり、同学部にて計算機システム、特にマイクロプログラミング方式、設計自動化、システム性能評価、データ構造などの研究に従事。現在同学部情報工学教室に勤務。工学博士。

〔論文概要〕 ハッシュ記憶法では、格納場所算出時における同義語の発生が問題とされており、これに対処する既知の方法は、オープン方式とチェーン方式の二つに大別される。

本論文は、ハッシュ記憶法のもつ種々の問題点を解決するために新たに予測子法を提案し、それが一般のオープン方式に適用できることを示し、さらにそのアルゴリズムを与えたものである。また、平均検索時間および平均棄却時間の短縮に有効性を発揮することを、確率的解析および計算機実験によって示している。本論文で提案された予測子法は、直接編成型のファイルなどに効率のよい構成法を提供するものと期待される。

### ○「仮想メモリスistem向きの最適プログラム構成方式と実験」

〔Vol. 15, No. 9, pp. 662~669 (Sept., 1974)〕



益田 隆司 (正会員)

昭和14年生。昭和38年東京大学工学部応用物理学科卒業、40年同修士課程修了。同年より(株)日立製作所にて、オペレーティング・システムの研究開発、

計算機システムの性能評価の研究に従事。現在同社システム開発研究所に勤務している。その間、米国カーネギ・メロン大学に留学した。昭和47年度情報処理学会論文賞受賞。



塩田 博行

昭和24年生。昭和43年香川県立多度津工業高校電気科卒業。同年より、(株)日立製作所にて、各種アプリケーション・プログラムの開発、計算機システム、

オペレーティング・システムの性能評価の研究に従事。現在同社システム開発研究所に勤務している。

〔論文概要〕 仮想メモリスistemの普及に伴ない、局所性の良いプログラムの作成法がいくつかの面から検討されている。本論文は、すでに開発済のプログラムを再配置可能なプログラム要素を単位として再構成することにより、プログラムの局所性を高める新しい方法を提案し、実プログラムでその有効性を確かめたものである。プログラム要素間の関連の強さの定義にワーキング・セットの考え方を利用したこと、プログラム要素の並べかえにクラスタ分析法を用いたことが特徴である。

本論文は、特に仮想メモリスistemのもとで繰り返し利用されるようなプログラムの局所性を高めるために、実用価値の大きい有効な方式を提供したものと考えられる。

## 昭和 50 年 5～6 月情報処理学会研究会開催通知

| 研究会名          | 日        | 時           | 会場     | 備考   |
|---------------|----------|-------------|--------|------|
| イメージ・プロセッシング  | 6月23日(月) | 14:00～17:00 | 機械振興会館 | 下記参照 |
| システム性能評価      | 6月27日(金) | 14:00～17:00 | 同上     | 同上   |
| 医療情報処理        | 7月7日(月)  | 14:00～17:00 | 同上     | 同上   |
| 計算機アーキテクチャ    | 7月8日(火)  | 14:00～17:00 | 同上     | 同上   |
| データ・ベース       | 7月10日(木) | 14:00～17:00 | 同上     | 同上   |
| コンピュータ・ネットワーク | 7月16日(水) | 14:00～17:00 | 同上     | 同上   |

### ○第8回 イメージ・プロセッシング研究会

(主査: 尾上守夫, 代表幹事: 長尾 真, 白井良朗, 高木幹雄)

日 時 6月23日(金) 午後2時～5時

会場 機械振興会館 6階65号室

[港区芝公園3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町駅・都営1号線大門駅・都営6号線御成門駅下車, 国電: 浜松町駅下車, バス: 新橋一渋谷線東京タワー・等々力一東京駅八重洲口線飯倉1丁目下車, Tel. (03) 434-8211]

議 題 (1) は次のようになります。

図形の細線化についての比較研究 田村秀行 (電総研)

[概要] 従来から数多く発表されている細線化法のサーベイと代表的な方法についての比較検討を述べる。

(2), (3) は前号参照

### ○第5回 システム性能評価研究会 (主査: 大野 豊, 代表幹事: 石田晴久)

日 時 6月27日(金) 午後2時～5時

会場 機械振興会館 6階65号室 (所在地は上記参照)

議 題 (1) 汎用 DBMS のシミュレーションモデルについて

中村史朗, 吉田郁三, 近藤秀文 (日立・シ研)

葛西靖二 (日立・中研)

[概要] DBMS を使用するユーザシステムの事前性能評価を主目的として, 開発したシミュレーションモデルの構成・機能および制度について述べる。

(2) 一般事務処理用システムの評価について 石上孝雄 (富士通)

[概要] 統計によるモデルジョブで一般事務用処理システムの評価を行う一方法について述べる。

(3) データ・ベースシステムの性能解析

梨山 修, 村井正和, 河津誠一 (横須賀通研)

〔概要〕 データ・ベースシステムのモデルを作成しトランザクション・スケジューリング・排他制御等のスループット応答時間に与える影響を解析する。

#### ○第4回 医療情報処理研究会

(主査: 開原成允, 代表幹事: 吉本千禎, 飯坂讓二, 上野晴樹)

日 時 7月7日(月) 午後2時~5時  
会 場 機械振興会館 6階 65号室 (所在地は上記参照)  
議 題 (1) MEDINFO 1974 の発表にみる世界の医療情報処理研究の現状  
吉本千禎 (北大), 郡司篤晃 (厚生省), 岡本行年 (IBM),  
神沼二真 (日立), 上野晴樹 (青学大), 開原成允 (東大)  
〔概要〕 MEDINFO 74 は, 昨年8月, スtockホルムで, IFIP Congress 74 と並行して, IFIP/TC 4 が主催し, 全世界から医療情報処理に関する多数の研究者を集めた国際会議であった。  
本研究発表会では, 1000 ページに及ぶ論文集の中から, 各発表者が, それぞれの観点から整理のうえ, 報告する。これにより, 世界的趨勢を探るとともに, わが国の医療情報処理研究の将来についても考察する。

#### ○第8回 計算機アーキテクチャ研究会 (主査: 相磯秀夫, 代表幹事: 所真理雄)

日 時 7月8日(火) 午後2時~5時  
会 場 機械振興会館 6階 65号室 (所在地は上記参照)  
議 題 (1) KOCOS のアーキテクチャ(1)ーフィロソフィとシステム構成  
石塚朝生, 上林憲行, 武山 明, 徳田英行 (慶大)  
西垣秀樹, 平塚良治 (沖電気)  
〔概要〕 ミニ・コンピュータ・コンプレックスーKOCOS の方式設計とその特徴について述べる。  
(2) KOCOS のアーキテクチャ(2)ープロセス間・通信方式とソフトウェア構成 石塚朝生, 上林憲行, 武山 明, 徳田秀行 (慶大)  
西垣秀樹, 平塚良治 (沖電気)  
〔概要〕 KOCOS におけるソース・シェアリング方式を概説する。

#### ○第12回 データ・ベース研究会 (主査: 西野博二, 代表幹事: 国井利泰)

日 時 7月10日(木) 午後2時~5時  
会 場 機械振興会館 6階 65号室 (所在地は上記参照)  
議 題 (1) 大容量ディスク装置に対するファイルの適正配置法  
近藤秀文, 吉田郁三 (日立・シ研), 加藤 孝 (日立・ソフト)  
〔概要〕 ファイル・アクセス・データの統計量にもとづいて, 発見的方法によりファイルをディスクに法律的に配置するアルゴリズムについて述べる。

- (2) データ・ベース導入の問題点 野崎英一 (富士銀行)  
 [概要] 金融機関におけるデータ・ベースと、導入上の問題点について述べる

## ○第1回 コンピュータ・ネットワーク研究会

(主査: 猪瀬 博, 代表幹事: 浅野正一郎)

- 日 時 7月16日(水) 午後2時~5時  
 会 場 機械振興会館 6階67号室 (所在地は上記参照)  
 議 題 (1) ALOHA-NCP について  
 海老原義彦, 野口正一, 大泉充郎 (東北大)  
 [概要] ALOHA 網と ARPA 網におけるプロトコルについて述べる.  
 (2) データ交換網の開発状況について 倉橋和夫他 (電電公社)  
 [概要] 時分割回線交換方式に基づく新しいデータ網の設計思想・構成機能などにつき述べる.  
 (3) EPICS におけるハイレベル・プロトコルについて  
 川合英俊 (電総研)  
 [概要] パターン処理実験用に開発した, インハウス・ネットワーク (EPICS) のハイレベル・プロトコルの種類とその利用形態につき述べる.

## 第8回情報科学若手の会シンポジウム開催について

標記シンポジウムが下記の通り開催されます。参加御希望の方は下記要領に従ってお申し込み下さい。

### 記

- 主 催 (社)情報処理学会プログラムシンポジウム委員会情報科学若手の会  
 目 的 情報科学及びその関連分野に関して、実際に研究に携わっている若手研究者、技術者が、お互いに問題を提起し合い、宿泊を共にして広く自由に討論すること。  
 期 日 昭和50年7月15日(火)~17日(木)  
 会 場 国民宿舎鳩の巣荘(東京都西多摩郡)  
 定 員 50名  
 資 格 学部卒業6年以下  
 申込期限 昭和50年7月1日(火)(定員に限りがありますのでお早めをお願いします。)  
 参加費 6,000円  
 申込方法 氏名、所属、大学卒業の方は卒業年度、学部・学科、連絡先、電話番号、現在関心のある分野及び討論したい問題点をA4版の用紙に記入して送付のこと。  
 申 込 先 〒113 東京都文京区本郷 7-3-1  
 東京大学理学部物理学科後藤研究室  
 問 合 せ 電話 (03) 812-2111 内線 6682 (郡司または元吉), 6228 (庵原)